

図書館における乳幼児へのサービスについて～絵本と子育て事業を通して～

1 ブックスタートとは

“Share books with your baby”赤ちゃんにとっての絵本は「読む(read books)もの」ではなく、「読み手と共に楽しむ(share books)もの」だというコンセプトのもと、1992年イギリスバーミンガム市の事業として、健診時に読み聞かせの体験と赤ちゃんに絵本のプレゼントを行う「ブックスタート」が開始した。

そこから世界に広がり、日本では2000年「子ども読書年」に開かれた、子ども読書年推進会議内で紹介され、ブックスタート室が発足。2001年4月から12市町村が新規事業としてブックスタートを開始した。

2022年12月31日時点で、全国で1,425自治体、都内では42自治体がブックスタート事業を実施している。

2 西東京市図書館での取組

絵本に関心がある方にもない方にも、外国人親子にも、障害のある方にも、第一子にも末っ子にも、地域に暮らすすべての赤ちゃんと保護者が対象になり、絵本で心ふれあうひとときを届けることが、ブックスタートの基本になる。

それを踏まえ、西東京市図書館では、2003年(平成15年)6月から「絵本と子育て事業」という名称で、健康推進課(現・健康課)との連携で開始した。3～4か月児健康診査会場に、図書館司書及び読み聞かせボランティアが赴き健診終了後に、子育てにおける絵本の役割や子どもの読書についてのアドバイス、図書館おすすめ絵本を使用した読み聞かせの実演を行うとともに、0～3歳向け図書館おすすめ絵本リストと司書がセレクトした絵本を配布し、ご家庭でいつでも本を手にしてもらえる環境を提供している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止措置として、検査会場での案内は中止しているが、代わりに図書館窓口または郵送での配布は継続している。

「絵本と子育て事業」とは

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

❖絵本と子育て事業とは？

赤ちゃんの体の発育にミルクが必要なように、赤ちゃんの心を育むためには、たっぷりの愛情と抱っこなどのスキンシップ、優しい語りかけが大切だといわれています。

乳幼児期から絵本に接することによって、赤ちゃんは豊かなことばの世界に出会い、情操面の発達にもつながっていくことでしょう。

絵本と子育て事業は、乳幼児の健康審査の場をお借りして、絵本を贈り、読み聞かせの実演や、読書のアドバイスをを行います。子どもと保護者が、絵本を通じて心の触れ合いと、一緒に過ごす時間の楽しさや大切さなどを知っていただくことができれば幸いです。

❖いつから読んであげたらいいの？

赤ちゃんと一緒に読んでみようかなと思ったときが、絶好のスタート日です。お渡しした絵本を読んであげてください。「あら？喜ばないのかしら？」と思うときもあるでしょう。赤ちゃんもその日の気分や個性は様々。またのときに、何回でも読んであげてみてください。きっと、絵本を見ながら、親子でにっこりするときがくるでしょう。

❖もっとたくさんの絵本を読みたいときは？

各館とも、たくさんの絵本をご用意しています。「はじめまして～赤ちゃんにおくるえほん 30 冊～」で、紹介している絵本もあります。育児に関する本をはじめ、おとなの本も各種そろえています。図書館の利用カードは、赤ちゃんもおとなも作れます。ベビーカーで入れます。お散歩の途中にでも、どうぞ最寄の図書館にご来館ください。

♡ 図書館はすべての赤ちゃんが幸せな時間をすごせますよう、保護者のみなさまを応援します。

西東京市図書館